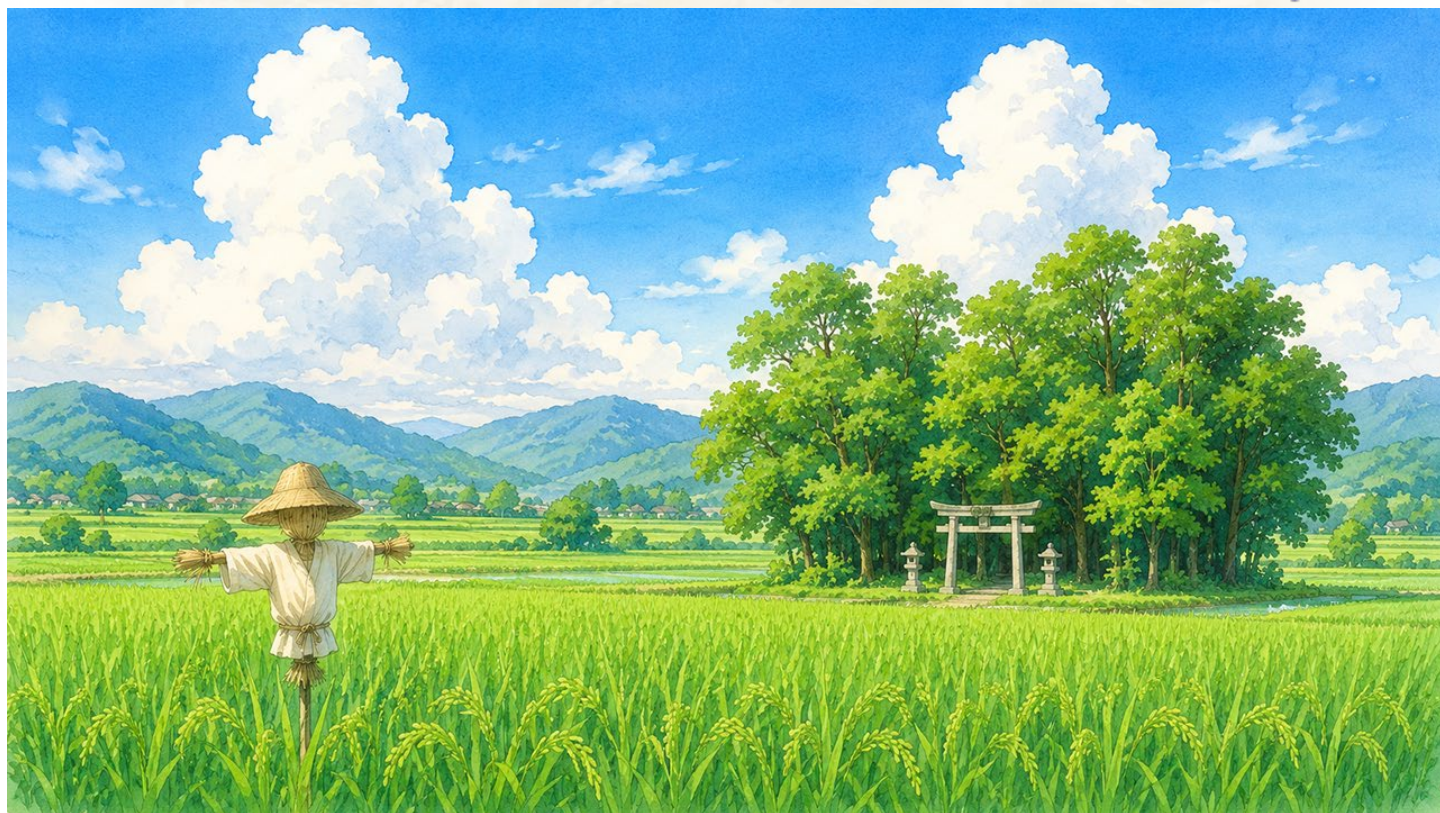


令和8年  
夏号

7月1日発行

# 三重県神社庁 「季節たより」



## 心で感じる初夏の風

新緑を駆ける涼風を感じる間もなく、梅雨に入り、今年もあつという間に夏を迎えます。昨年は真夏日が続出し、観測史上最も暑い六月だったとのことですが、今年も早くから「涼」を探すことになりそうです。

さて、日本の夏にはいつの頃からか「怪談で涼を取る」という文化が芽生えました。効果は人それぞれ：といったところでしようが、今も語られるような日本の怪異譚や逸話について、民俗学の見地からまとめた書物に、柳田國男の『遠野物語』があります。

岩手県遠野地方に伝わる伝承を記録した本書には、河童や座敷童など、全国的にも著名な妖怪、ものけに遭遇したとされる話が、単なる「怪談話」ではなく、遠野地方に暮らす人々の「現実的な体験談」として多数記されています。

本書の冒頭に、「この本を外国に在る人々に呈す」と記した柳田。これは人々の目が海外に向けられた明治の世にあって、移りゆく自然に感謝と畏怖の念を抱き、その機微を敏感に感じ取ってきた、日本人としての文化と感性を忘れないでほしいという、柳田の願いかもしれません。

『遠野物語』から百年以上。AIの台頭により大きな変革を迎えた今日にあって、当時の感性を、私たちは置き去りにしていないでしょうか。目まぐるしく動く世界の中で、心を豊かにするヒントは、今も自然が教えてくれるのかもしれない。

いにしへの 人の心を明らかに

さとるさととりも 神のまにまに

(柳田國男『神道と民俗学』より)

# 御木曳行事

おきひき

伊勢神宮では、令和十五年の第六十三回式年遷宮に向けたお祭りや準備が進んでいます。社殿の建て替えに必要な木材を「御用材」といいますが、令和八年から九年にかけ、この「御用材」を両宮域内に曳き入れる行事「お木曳」が伊勢の住民（旧神領民）と全国の崇敬者（特別神領民）によって盛大に行われます。今年の御木曳行事は、外宮から内宮「陸から川」へと舞台は移っています。



## 表書き

神前にお金やお酒などをお供えする際に記す表書きは、「御神前」「御供」「玉串料」「御神料」「初穂料」などが一般的です。御神前・御供という表書きは説明するまでもありませんが、玉串料・御神料とは玉串や神の代わりに、また初穂料とはその年に初めて収穫されたお米の代わりに、それぞれお供えする金銭であることを意味しています。このほか、「上」や「奉納」「奉納」と書く場合もあります。「上」は、よく神様や目上の方に対する御礼の際の表書きに用いられる語です。



## 神道の豆知識

### ヤマ・サト・ノ

「山にきた里にきた野にも来た」といえば、童謡「春が来た」の一節ですが、ここに歌われる「ヤマ」「サト」「ノ」は、農耕を主として歩んできた、日本人の心の原風景を表すキーワードにもなっています。

かつて、農村の多くは山麓に拓かれました。文字通り山岳地帯を示す「ヤマ」と、人々の暮らす「サト」。そしてその境界である「ノ」は薪や木の実などの採集地とされました。「サト」を抜けた平地は「タ(田)」として、稲作をはじめとした耕作が行われました。

山岳は「ヤマ」と「ダケ」に分けることもでき、特に険しい「ダケ」は、修験の場としてしばし他界ともされておりました。人々は祭祀の場として、「サト」に氏神を祀ったほか、「ノ」にはその奥宮を、また「タ」には田宮をそれぞれお祭りし、豊穰や村落の守護を祈りました。水田、村里、そして背後の野と彼方に広がる山々。古来の人々の暮らしとその景色は、今も私たちの心に息づいています。

三重県神社庁のSNSもどうぞご覧ください



三重県神社庁 Instagram



三重県神社庁 YouTube



神社本庁ホームページ



楽しく学べる神社のページ「お宮キッズ」

神社本庁のホームページです

## 三重県神社庁 ホームページ



三重県内各神社では、家内安全・商売繁盛初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願厄祓い・病氣平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々な祈願を受付けています。いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。ご祈願についてのお問合せは、三重県内の各神社までお願いいたします。

